

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 16 回学協会長会議

開催日時 平成 29 年 5 月 23 日(火)
12 時 30 分から 13 時 30 分

開催場所 幕張メッセ国際会議場 1 階 101
(〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1)

第 16 回学協会長会議 議事次第

1. 前回議事録確認

第 15 回議事録 (P1-P3)

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

2017 年大会概要

2017 年大会概要 (別添資料)

PEPS ジャーナルの出版状況報告 (別添資料)

日本学術振興会育志賞候補者の推薦について

3. 日本学術会議の近況報告 (P4-P6)

4. 団体会員に関わる定款等の変更について (P7-P9)

学協会長会議幹事会メンバー選出について (P10-P11)

5. 次期学協会長議長の選任

6. その他 (P12-P13)

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 15 回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成 28 年 10 月 25 日(火)午後 3 時 00 分から 4 時 40 分

開催場所 : 東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

(東京都文京区弥生 1-1-1)

出席者 :

[学協会] 議長, 垓本尚義(日本地球化学会), 脇坂安彦(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 日比谷紀之(日本海洋学会), 山里平(日本火山学会), 宮本潔(形の科学会), 向山栄(日本活断層学会), 岩崎俊樹(日本気象学会), 榎並正樹(日本鉱物科学会), 森田喬(日本地図学会), 前田晴良(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 林歳彦(資源地質学会), 山岡耕春(日本地震学会), 町田功(日本水文科学会), 樋口篤志(水文・水資源学会), 宮嶋宏行(生態工学会), 島田秋彦(生命の起原および進化学会), 浜田康史(石油技術協会), 大畑哲夫(日本雪氷学会), 新谷昌人(日本測地学会), 今村隆史(日本大気化学会), 田村亨(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 高橋修(日本地学教育学会), 竹之内耕(地学団体研究会), 杉田文(日本地下水学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 小口高(日本地形学連合, 地理情報システム学会), 渡部芳夫(日本地質学会), 村山祐司(日本地理学会), 海東達也(地理教育研究会), 野上道男(東京地学協会), 島田周平(東北地理学会), 濱本昌一郎(土壌物理学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 千葉昭彦(物理探査学会), 山室真澄(日本陸水学会), 北岡豪一(陸水物理研究会), 栗屋善雄(日本リモートセンシング学会), 田近英一(日本惑星科学会), 西弘嗣(地球環境史学会), 服部克己(日本大気電気学会)

[日本学術会議] 大久保修平(日本学術会議地球惑星科学委員会委員長)

[連合] 川幡穂高(会長), 田近英一(副会長), 中村正人(副会長)

(敬称略)

議事内容 :

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

(1) 2017 年連合大会準備状況報告(川幡会長)

2017 年連合大会の開催状況について川幡会長より報告があった。会期中の日程やスケジュール、開催会場について説明があった。2017 年大会開催日程は例年より一日多い 6 日間(土曜日から)の開催となること、「アイスブレイカー」や「International Mixer Luncheon」も予定に入れて準備を進めていることが報告された。

セッション提案については、当初の予想を大きく上回る、266 件の申し込みがあり大変好況であったことが報告された。

連合の今後の発展のために、加盟学協会との関係を密にすべく、学協会におかれても次回の代議員選挙に際し、代議員に立候補・推薦及び投票にむけて積極的に取り組まれることを期待する旨、川幡会長より説明があった。また、昨年に引き続き、日本地球惑星科学連合への寄附のお願いがあった。なお、寄附を頂きました皆様にお送りする領収書は、確定申告の際に「所得控除」の添付書類としてご利用いただけることが説明された。

(2)JpGU ジャーナルの進捗状況報告

PEPS(Progress in Earth and Planetary Science)の編集・出版状況について川幡会長より報告があった。ジャーナルは現在、順調な編集・出版を進めている。

トムソン・ロイターとエルゼビアに対し、ジャーナル評価指標取得のため、IF、Scopus の採録申請を行った。順調に受理されれば、2018 年に付与される予定である。

PEPS に投稿された方を対象に外国人招待者のトラベルサポートを積極的に進めている。2017 年度に開催予定の国際会議があれば、事務局か編集長にご連絡を、との紹介があった。

(3)団体社員の体制および規則について

連合の団体社員の体制変更に伴う規則の変更について、川幡会長より説明があった。

幹事会設置について、議論され、以下の内容を理事会に提案することとなった。

(3-1)規則について

- 1.学協会長会議規則(案)に目的を追記した規則を理事会で作成する。
- 2.法人運営基本規則の第 8 章から上記 1 の学協会長会議規則を参照できるようにする。
- 3.法人運営基本規則の第 8 章、「学協会長会議」に幹事会について記載する。

(3-2)申し合わせについて

学協会長会議幹事会の運営に関する申し合わせ(案)を理事会と学協会長会議で作成する。

(3-3)幹事会メンバーについて

第 7 回理事会(3 月開催)までに前議長(海洋学会, 日比谷会長)と現在の議長(地球化学会, 坂本会長)とで検討し、年内を目標にまとめる。

(3-4)理事会へのリクエストについて

- 1.規則か申し合わせに、理事会へのオブザーバとしての幹事会の意見を尊重する、という内容を記載することが求められた。
- 2.幹事会について規則に記載する。

3. 日本学術会議の近況報告 (日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長)

(1)日本学術会議のこれまでの活動

大久保委員長より、日本学術会議の活動報告があった。大型研究計画の選考について、防衛装備庁の安全保障技術推進制度に対する対応、次期の会員・連携会員の選考、電子ジャーナル問題、原発事故等による放射性物質の移流・拡散、分科会の活動について、それぞれ報告があった。

4. その他

(1)日本気象学会、岩崎会長より、「原子力関連施設の事故に伴う放射線物質拡散に関する作業部会」の活動について報告があった。日本学術会議での公開シンポジウムが行われるなどの報告があった。

(2)地球化学会、塚本会長より、6月26日から7月1日に開催された「ゴールドシュミット会議 2016(横浜)」について、報告があった。参加者は69カ国から約3740名にのぼり、盛会であった旨が報告され謝辞が述べられた。

(3)日本古生物学会、前田会長より、「熊本・大分地震で被害を受けた地域博物館の支援」について報告があった。連合から発出した支援に関する声明への御礼と、まだ引き続き支援を必要としている地方自治体の博物館、民間の資料館、への支援を今後お願いしたく、現在、日本地質学会とどの程度支援が必要なのか等を、調査中であることが説明された。今後、具体的な案がまとまり次第、報告されること、また、その際には皆様のご意見とご支援をお願いしたいという報告があった。

以上

日本学術会議報告

地球惑星科学委員会委員長 大久保修平

日本学術会議は、2017年4月13日-14日に173回総会を開催し、同じ期間に第三部会（理工学）を開催した。これに先立って、2016年12月27日に地球惑星科学委員会を開催した。これらの会議で話題となった事項につき、以下で概説する。

(1) 軍事的安全保障研究に関する声明

防衛装備庁の安全保障技術研究推進制度に端を発して、広く関心を集めていた軍事的安全保障研究と学術に関して、学術会議幹事会から声明が発せられた（全文を別紙に引用）。この声明で注目すべき点は以下のくだりである。

「大学等の各研究機関は、・・・、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その適切性を目的、方法、応用の妥当性の観点から技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきである。学協会等において、それぞれの学術分野の性格に応じて、ガイドライン等を設定することも求められる。

研究の適切性をめぐっては、学術的な蓄積にもとづいて、科学者コミュニティにおいて一定の共通認識が形成される必要があります、個々の科学者はもとより、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会と共に真摯な議論を続けて行かなければならない。・・・」

なお、広く社会一般からの意見も聴くために開催された「安全保障と学術の関係：日本学術会議の立場」と題した学術フォーラム（2017年2月4日）での講演や、「安全保障と学術に関する検討委員会」の報告（提言案）は下記サイトに公開されている

(<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/anzenhosyo/anzenhosyo.html>)

また、地惑委員会とJpGUの共催で、2017年合同大会ユニオンセッションU06「地球惑星科学の進むべき道-7: 防衛装備庁安全保障技術研究制度」を平成29年5月20日に開催した。

(2) 大型研究計画（マスタープラン2017）

2017年2月8日に提言としてとりまとめられて、公表済み。3年前のマスタープラン2014のときにはなかった融合分野が創設されたため、地惑関係の採択数（重点分野を含め）の比較は困難。地惑関係だけでエントリーし、重点分野に採択された課題数は前回と同じ1であった。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-23-t241-1.html>

次のマスタープランの改訂は2020年2月ごろで、大改訂という位置づけとなる見込み。今回と同じスケジュールなら、2019年3月ごろ公募があり、4～6月に審査ということになる。準備期間はあと2年しかないことに留意。委員長の個人的見解としては、地惑委員会がこれまで行った予備審査・JpGUでの公開審査のようなシステムを継続する方向で、次期委員会に申し送りたいと考えている。次期委員会で approve されれば、2017年12月ごろには1回目の予備審査が行われる可能性もある。

(3) 次期の会員・連携会員の選考

24期（2017年10月～2020年9月）の会員・連携会員を選考中である（推薦等は締切済）。候補者になりうる方についての参考情報を提供していただいた学協会にはお礼申しあげる（地惑では15学会程度）。

(4) 電子ジャーナル問題

本委員会の働きかけをきっかけに、学術会議の公開シンポ（学術フォーラム）「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」が、H29年5月18日（木）開催された。文科省や国大協の担当者、Elsevier 役員、大学図書館長などの関係者が講演。それなりの好影響を期待。

(5) 原発事故等による放射性物質の移流・拡散

公開の学術フォーラム「放射性物質の移動の計測と予測 ― あの時・いま・これからの安心・安全」を、2017年8月7日（月）に学術会議講堂で開催する。

別紙

平成29年3月24日

第243回幹事会

軍事的安全保障研究に関する声明

日本学術会議

日本学術会議が1949年に創設され、1950年に「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」旨の声明を、また1967年には同じ文言を含む「軍事目的のための科学研究を行わない声明」を発した背景には、科学者コミュニティの戦争協力への反省と、再び同様の事態が生じることへの懸念があった。近年、再び学術と軍事が接近しつつある中、われわれは、大学等の研究機関における軍事的安全保障研究、すなわち、軍事的な手段による国家の安全保障にかかわる研究が、学問の自由及び学術の健全な発展と緊張関係にあることをここに確認し、上記2つの声明を継承する。

科学者コミュニティが追求すべきは、何よりも学術の健全な発展であり、それを通じて社会からの負託に応えることである。学術研究がとりわけ政治権力によって制約されたり動員されたりすることがあるという歴史的な経験をふまえて、研究の自主性・自律性、そして特に研究成果の公開性が担保されなければならない。しかるに、軍事的安全保障研究では、研究の期間内及び期間後に、研究の方向性や秘密性の保持をめぐる、政府による研究者の活動への介入が強まる懸念がある。

防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」（2015年度発足）では、将来の装備開発につなげるという明確な目的に沿って公募・審査が行われ、外部の専門家でなく同庁内部の職員が研究中の進捗管理を行うなど、政府による研究への介入が著しく、問題が多い。学術の健全な発展という見地から、むしろ必要なのは、科学者の研究の自主性・自律性、研究成果の公開性が尊重される民生分野の研究資金の一層の充実である。

研究成果は、時に科学者の意図を離れて軍事目的に転用され、攻撃的な目的のためにも使用されうるため、まずは研究の入り口で研究資金の出所等に関する慎重な判断が求められる。大学等の各研究機関は、施設・情報・知的財産等の管理責任を有し、国内外に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その適切性を目的、方法、応用の妥当性の観点から技術的・倫理的に審査する制度を設けるべきである。学協会等において、それぞれの学術分野の性格に応じて、ガイドライン等を設定することも求められる。

研究の適切性をめぐっては、学術的な蓄積にもとづいて、科学者コミュニティにおいて一定の共通認識が形成される必要があり、個々の科学者はもとより、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会と共に真摯な議論を続けて行かなければならない。科学者を代表する機関としての日本学術会議は、そうした議論に資する視点と知見を提供すべく、今後も率先して検討を進めて行く。

公益社団法人日本地球惑星科学連合
定款第7条変更の件

第2章 会員及び社員

第2章 会員及び社員

(旧)
(法人の構成員)

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「法人法」という。）上の社員とする。

(以下省略)

(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置) (変更なし)

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

(新)
(法人の構成員)

第7条 この法人に次の会員を置く。

- (1) 正会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる又は関心を持つ個人
- (2) 団体会員 この法人の目的及び事業に賛同して入会した地球惑星科学に関わる学術 研究団体
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で社員総会において推薦された者

2 この法人は、正会員の中から選出された代議員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下、「法人法」という。）上の社員とする。

(以下省略)

(代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置) (変更なし)

第11条 代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

第4章 社員総会

(旧)
(構成)

第27条 社員総会は、団体会員及び代議員をもって構成する。

2社員総会における議決権は、団体会員及び代議員それぞれ1名につき1個とする。

第4章 社員総会

(新)
(構成)

第27条 社員総会は、全ての代議員をもって構成する。

2社員総会における議決権は、代議員1名につき1個とする。

第6章 学協会長会議

(設置等) (変更なし)

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

第6章 学協会長会議

(設置等) (変更なし)

第48条 この法人は、団体会員の代表者を委員とする学協会長会議を設ける。

2学協会長会議は、理事会の諮問に応え、理事会に対し、意見を述べることができるとともに、理事会の承認のもと、その名において対外的な意見の表明ができる。

(新)
附則

1この定款は、附則を除き、この法人の設立の登記の日から施行する。

2 (略)

11 第7条及び第27条の改正 (平成29年5月23日) については、平成30年4月1日より施行する。

第3章 代議員の選挙

(旧)

(代議員の定数)

第6条 代議員の定数は、理事会の定めにより別に設ける代議員の選挙のための正会員による選挙の日を公示した日(以下「選挙公示日」という。)の前日における団体会員の数の2倍とする。

第5章 社員総会の運営

(旧)

(社員の出席)

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

~~2 団体会員たる社員は、代表者自ら若しくはその団体の役員、会員、社員若しくは使用人を指定して又は代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。~~

~~3 社員総会の招集通知は、定時総会にあつては4月末日現在、臨時社員総会にあつてはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。~~

~~4 社員総会に出席する者は、会場の受付にて、次のとおり、その出席資格の確認を受けなければならない。~~

- ~~(1) 代議員たる社員本人が出席する場合には、本人であること~~
- ~~(2) 代議員たる社員又は団体会員の代理人として出席する場合には、委任状等の提出によりその代理権を有する者であること~~
- ~~(3) 団体会員たる社員の代表者が出席する場合には、その団体の代表者本人であること~~
- ~~(4) 団体会員から指定を受けた役員又は使用人として出席する場合には、その旨の書面~~

~~により、その団体から指定を受けた者であること~~

~~5 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。~~

第3章 代議員の選挙

(新)

(代議員の定数)

第6条 代議員の定数は、150名とする。

第5章 社員総会の運営

(新)

(社員の出席)

第15条 代議員たる社員は、自ら又は他の代議員たる社員を代理人に選任して、社員総会に出席する。

~~2 (削除)~~

~~2 社員総会の招集通知は、定時総会にあつては4月末日現在、臨時社員総会にあつてはその開催日の3週間前の時点での社員名簿の登録に従って発すれば足りるものとする。~~

~~3 社員総会に出席する社員は、会場の受付にて、その出席資格の確認を受けなければならない。~~

~~4 代理人欄が空欄の委任状が提出された場合には、社員総会の議長が選任されたものとみなす。~~

(新)

附則

(1) この規程は、この法人の設立の登記の日に遡って適用されるものとする。

(2) (略)

.....

(6)平成29年5月23日 第6条及び第15条改正。第15条改正について、平成30年4月1日から施行する。

理 事 会 決 議 事 項

学協会長会議規則

(趣旨)

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、学協会長会議に関し必要な事項を定めるものとする。

(学協会長会議の任務)

第2条 学協会長会議は、以下の事項等について、諮問に応え、加盟学協会の意見を集約し、理事会へ意見を述べる。理事会は連合の運営にあたり、学協会長会議の意見を尊重するものとする。

- (1) 連合の活動や制度、方針について
- (2) 学協会と連合の将来像と相互の協力体制について
- (3) 国の重要課題等に対する連合の意見の集約と提言の発出について
- (4) その他、学協会からの連合への要望について

(幹事会)

第3条 学協会長会議のもとに幹事会を置く。幹事会は、加盟学協会の意向を集約し、理事会と加盟学協会との情報共有をはかる。

2 幹事会の長は、学協会長会議議長とする。幹事会の長は、学協会長会議の委員の中から、サイエンスセクションや分野のバランスを考慮して、10名以内の幹事会メンバーを選任する。当連合の理事・監事は幹事会メンバーとなることはできない。

3 幹事会のメンバーの任期は、6月1日から1年間とする。ただし、団体会員の登録代表者の交代に伴い学協会長会議の委員を交代した幹事会メンバーは、幹事会の長の求めにより幹事会にオブザーバ出席することができる。

4 幹事会は、学協会長会議に先立ち開催される。また、幹事会の長が必要と認めた場合に開催するものとする。

5 加盟学協会との情報共有を促進するため、幹事会メンバーは、理事会にオブザーバ出席できる。

学協会長会議幹事会メンバー候補(案)

学協会名		セクション	備考
1	次期議長 学協会		次期議長学協会
2	日本地球化学会	宇宙気水固体生命	現議長学協会
3	一般社団法人 水文・水資源学会	気水	考慮
4	日本古生物学会	生命	今までの議長学協会
5	一般社団法人 日本地質学会	固体生命	今までの議長学協会
6	公益社団法人 日本地理学会	人間	今までの議長学協会
7	公益社団法人 日本地震学会	固体	今までの議長学協会
8	特定非営利活動法人 日本火山学会	固体	今までの議長学協会
9	地球電磁気・地球惑星圏学会	宇宙固体	今までの議長学協会
10	公益社団法人 日本気象学会	気水	今までの議長学協会

Education

Welcome to the EGU's Education section! Here you can find information about EGU's educational initiatives, including:

- [Geosciences Information for Teachers \(GIFT\) workshops](#)
- [Planet Press – geoscientific news for children](#)
- [Teacher's Corner – teaching resources in the geosciences](#)
- [GeoLocations Database – geological locations across Europe](#)

You can also access the contact details of the EGU [Committee on Education](#) on this page.

News

- **EGU Committee on Education seeking two new members**
The Committee on Education, which coordinates the EGU activities related to secondary and tertiary education, is looking for new members to help further its programmes. [[Read more](#)]
- **Geosciences Information for Teachers (GIFT) Workshop - Topic: The Mediterranean**
The 2017 Geosciences Information For Teachers (GIFT) workshop will take place on April 24-26 2017 at the EGU General Assembly in Vienna, Austria. The theme for the GIFT workshop is 'The Mediterranean'. It has been organized by the Committee on Education of EGU, with a large participation of the Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia (INGV) Roma, Italy.
The mediterranean area shows a distinctive geological fingerprint which attracted generations of Earth scientists. Mountain chains, orogenic belts, extensional basins, active volcanoes, violent earthquakes, tsunamis, landslides and floods testify to the vigorous active tectonics that characterize the region. The same area, owing to the favorable climate, availability of resources (i.e., water and raw materials) and the presence of the sea, allowed for trade and cultural exchanges, and made it a cradle of culture.
Currently, the area is densely populated with progressively increasing anthropogenic pressures, which, when combined with the peculiar geological setting, result in heightened vulnerability to climate change enhanced by increasing atmospheric carbon dioxide.
The workshop will explore most of these aspects. A hands-on experience session will also be part of the workshop. [[Read more](#)]
- **GIFT Distinguished Lectures Series - Call for Proposals**
The EGU Committee on Education is going to inaugurate an annual series of Geosciences Information for Teachers (GIFT) Distinguished Lectures, to be given by top scientists who have previously participated as speakers in GIFT workshops during EGU General Assemblies. High school teachers, high school directors and educators for teachers from the European area are welcome to request a lecture, for which the EGU Committee on Education will cover the travel and subsidise the costs of the speaker. [[Read more](#)]
- **Planet Press:** This project brings Earth, planetary and space science research to children. Planet Presses are short versions of EGU press releases – articles for journalists based on scientific research published in EGU journals – written in child-friendly language. All of EGU's science press releases issued to date now have a corresponding kids version. [[Read more](#)]

GIFT – Geosciences Information For Teachers

The EGU Committee on Education has organised Geosciences Information for Teachers (GIFT) Workshops since 2003. These are 2.5 day teacher enhancement workshops held in conjunction with EGU's annual General Assembly. There, selected top-level scientists working in the Earth Sciences offer the invited teachers talks centered on a different theme every year.

The main objective of the GIFT workshops is to spread first-hand scientific information to science teachers of primary and secondary schools, significantly shortening the time between discovery and textbook, and to provide the teachers with material that can be directly transported to the classroom. In addition, the full immersion of science teachers in a truly scientific context (EGU General Assemblies) and the direct contact with world leading geoscientists are expected to stimulate curiosity towards scientific research that the teachers then transmit to their pupils.

Aims & Scope

The EGU Geosciences Information for Teachers (GIFT) Programme offers teachers of primary school to high school the opportunity to upgrade their knowledge in geophysical themes and to shorten the time between new discoveries and textbook information.

The Programme includes three different activities:

- **The GIFT Workshop:**
Organised at each EGU General Assembly, this symposium combines presentations on current research by leading scientists with hands-on activities presented by science educators for about 100 invited teachers.
- **The Fall Meeting:**
Organised over a long weekend, this workshop brings together representatives of the European funded and the international "science and education" programmes on selected topics to prepare the next EGU GIFT Symposia.
- **The GIFT Home Site:**
Organised as open platform for all national, European or international "science and education" programmes, scientists interested in sharing their results with educators, and teachers interested in bringing the geosciences into their classrooms.